

「人間関係づくりの演習と道徳⑧」

～「協力」を体験しよう～

土田 雄一



1 「協力」を体験しよう

今回は趣向を変えて、協力体験の動的演習を紹介する。「信頼・友情、男女の協力」などの内容項目に関連し、「仲間と支え合う」を体験するものである。実際に協力することの難しさと大切さ・楽しさを体験することで、道徳の資料の内容に共感しやすくなる。ここでは、用意する道具も少なく、汎用性の高いものを紹介する。

2 わりばしで「協力ゲーム」

わりばしは身近な素材であり、100円ショップでも安価で大量に購入できる。このわりばしを使って行う演習を紹介する。ルールは簡単だが意外に難しく、ペアの協力が不可欠である。

■わりばしペアリレー

【やりかた】

- ①わりばしがバトン代わり。
- ②2人組で、手のひらと

手のひらの間にわりばしを挟んで行うリレー。

【発展】

- ①前掲のペアリレーを3人組で行う。中心の人は両手で左右の人とバランスを取らなくてはならない。
- ②児童の実態に応じて、4人組、5人組など人数を増やして行うと協力の必要度が高まる。



■わりばしサークルゲーム

【やりかた】

- ①5・6人のグループで両手の間にわりばしを挟んで、円をつくる。
- ②演習1／そのままの状態ですぐ右回りに2周する。(できたら左回りに2周)
- ③演習2／そのままの状態ですぐしゃがむ。落とさないように立ち上がる。3回くりかえす。
- ④演習3／そのままの状態ですぐ決められた場所まで移動し、落とさないように戻ってくる。

■わりばし

パスキャッチゲーム

【やりかた】

- ①5・6人グループで円を作る。
- ②各自が持っているわりばしを、「せーの」で同時に右隣にパスをする(投げる)。
- ③左隣からパスされたわりばしを両手で落とさずキャッチできたら成功。
(右回りで成功したら左回りに挑戦)

【発展】

- ①キャッチを片手にする。難易度が高くなる。
- ②5・6人での成功が難しいときは、2人組のパスキャッチから始めるとよい。



このパスキャッチゲームは、相手のことを考えたパスが重要になる。自分中心のキャッチだけの意識ではなかなか成功しない。協力の意識が自然と高まる。他にも、2人組でわりばしとわりばしの間にボールや風船を挟んで運ぶリレーなどがある。自分たちで考えたゲームでもよい。

3 「協力ゲーム」を生かすために

わりばしを活用したゲームに限らず、協力を必要とするゲームは数多くある。そのゲームを、ゲームだけで終わらせないポイントが2つある。

- ①ゲームの合間に、「作戦会議」を入れる。
- ②ゲーム終了後に、「ふりかえり」の時間をとる。

この2つを意識して実施すると、その後(あるいは、その前)の道徳授業につながるだろう。

4 道徳授業と関連させて

「協力」に関連する内容項目2-(3)の授業とつなげて実施するとよい。重点主題として扱われている「支え合う仲間」(5年)や「みんなのために何ができるか」(4年)*と関連させると、より効果的である。実感を伴う話し合いができ、資料に自分を重ねやすくなるだろう。

*『ゆたかな心』(光文書院)掲載